

1 5. 高齢農家等の経営継続に向けた普及指導活動

中部振興局生産流通部畜産班

○佐藤 祐希、工藤 宏子、田上 直樹

1 背景・目的

当管内酪農経営体戸数は平成22年の23戸から、高齢化(後継者不在)や乳価低迷等を要因とする経営不振などにより28年には11戸まで減少している。

既存経営体の規模拡大により廃業者分を補う取組を行ってきたが、52%の廃業率を補うことはできず経産牛頭数、生乳生産量とも減少の一途をたどっており、これ以上の廃業を抑制することが喫緊の課題となっている。

そこで、ちょっとしたきっかけで廃業しかねない高齢農家に対する経営維持に向けた普及指導活動を行った。

2 取組内容

後継者の離農という突発事項の発生により高齢の経営主夫妻のみの労働力となり、搾乳成績が急激に悪化したA農家(経産牛頭数 102頭)に対し、次の取組を緊急的に行った。

- (1) 定期的な訪問による信頼関係の強化
- (2) 繁殖成績の向上支援等による乳量改善の取組
- (3) 搾乳検査の全頭実施等による乳質改善の取組

3 結果及び考察

A農家の搾乳成績は次のように向上した。

○ A経営体における搾乳成績等の推移(H28年上半期→H29上半期)

経産牛頭数 (頭)	102	→	90	体細胞数(万/ml)	39.8	→	31.2
経産牛平均乳量(kg/頭)	3,643	→	3,792				

当初はA農家自身を初め関係機関も『無理』と諦めていたが、定期的な訪問、協議、関係機関との一貫性のある改善指導が酪農家の指導に対する反応を良好にし、『やってみよう』と行動してくれるようになった。

妊鑑による受胎確認等を通じた繁殖成績の向上や、搾乳検査結果を受けての経産牛の淘汰等の行動を認めることで、次回に続く『やってみよう』が維持できるようであった。

結果の善し悪しにかかわらず、改善に向けて行動した部分を認めていくことが農家のモチベーションを上げることに繋がり、成績向上(回復)へと繋がったものと考えられる。

今回行った高齢農家の経営維持に向けた取組のポイントは以下のとおり。

- (1) 農家の信頼獲得のための農家訪問(何でも話せる環境づくり)
- (2) 関係機関との情報共有(県酪農協・家畜保健衛生所・市等)
- (3) 関係機関との役割分担(ほめる・だめだし・精神的なケア)
- (4) 農家の理解度に合わせた指導とPDCAサイクルの活用